

第3回 日本の平和と繁栄、安全を考えるセミナー —米国トランプ新政権と外交を考える—

この度、日本大学通信教育部（市ヶ谷）におきまして、日本国際情報学会主催の「第3回 日本の平和と繁栄、安全を考えるセミナー—米国トランプ新政権と外交を考える—」を開催しました。協力学術研究団体に指定され8年が経過し、学会員以外の方との交流も意義あることと考え、学会のPRや会員の獲得もと意欲をもって安全保障研究部会が主体となり企画したものです。

参加者申し込み欄の記載によりますと、大学院生や大学教員、研究機関、公的団体、メディア関係者から一般の方々その他まで幅広い参加者がみられました。実施した概要を報告致します。

開催日時 平成 27 年 9 月 30 日（土）10 時～17 時
場 所 日本大学通信教育部第 81 教室（千代田区九段南 4-8-28）
司 会 佐々木孝博（安全保障研究部会長）



セミナー概要

13 時 30 分 近藤大博（日本国際情報学会会長）開会挨拶



13 時 40 分～15 時 10 分 眞邊一近氏（日本大学大学院教授）「トランプ大統領誕生と世論調査、及び同氏の心理学的分析」

15時30分～17時00分 川上高司氏（拓殖大学海外事情研究所所長・教授）「トランプ政権の外交政策と課題—トランプの世界—」

17時00分 閉会

17時30分～20時00分 懇親会

講演内容等

1 トランプ大統領誕生と世論調査、及び同氏の心理学的分析:

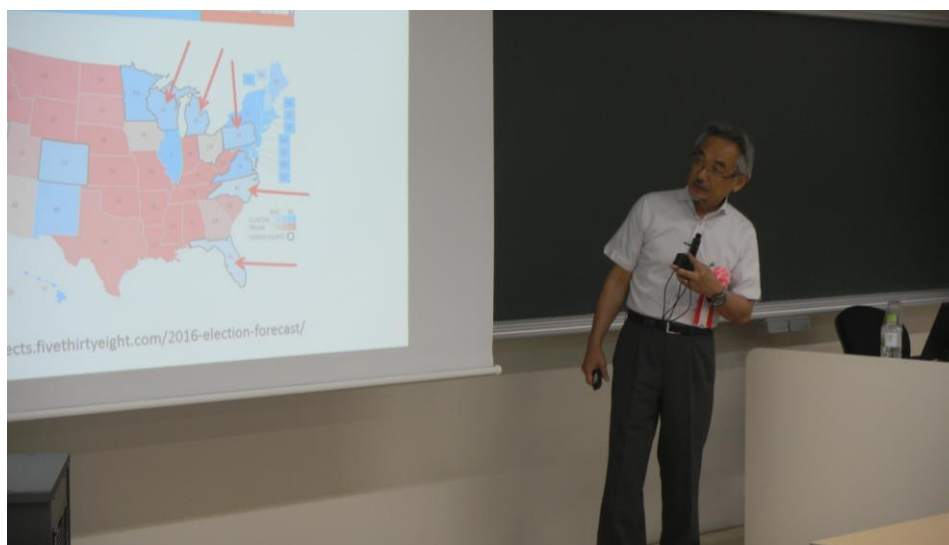
(1) 講師略歴

眞邊 一近(まなべ かずちか)氏 HP : <http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~manabe/>

1979年日本大学心理学科卒業後、明星大学で博士号（心理学）取得。

1986年から1993年まで明星大学心理・教育学科助手、博士号取得後1993年に渡米し、ノースキャロライナ州の Duke 大学およびメリーランド州立大学で研究員として5年間行動研究に従事した（当時の現職大統領はクリントン）。帰国後は、同志社大学、大阪青山短期大学を経て現在、日本大学大学院総合社会情報研究科教授、2017年4月より、日本大学生物資源科学部教授（日本大学大学院総合社会情報研究科兼任）。

日本心理学会理事、日本行動分析学会編集委員長を歴任し、現在、行動分析学会理事、専門分野は、行動分析学。



眞邊講師による講演

(2) 講演要旨

トランプ大統領の誕生を知ったのは、昨年イタリアに短期研究員として滞在している最中であった。TVは、英語放送のCNNをもっぱら視聴しており、投票日の直前まで、クリントンにはメール問題が問題視されていたものの、CNNの討論番組や世論調査に基づく報道では圧倒的にクリントン有利である印象を受けていた。しかし、事前の予想に反してトランプの勝利に終わり、大変驚いた。この結果は、実際の投票行動と事前の世論調査にずれがあり、世論調査が実際の投票行動を反映していなかったということを意味している。

そこで、その世論調査の方法と限界を考察した。

また、アメリカの精神科の医師が、トランプは自己愛性人格障害であり、職務上危険なので弾劾すべきだという主張を行っている。ロシアゲートの拡大などにより弾劾される可能性が報道されているが、独特なパーソナリティを持っていると評される大統領にどのように対応していくのが適切なのか？行動分析学の立場から考察した。

2 トランプ政権の外交政策と課題—トランプの世界—

(1) 講師略歴

川上 高司(かわかみ たかし)氏 HP : <http://tkawakamidreams.net/>

大阪大学博士(国際公共政策)。米国外交分析研究所研究員、(財)世界平和研究所研究員、防衛庁防衛研究所主任研究官、北陸大学法学部教授を経て現職。この間ジョージタウン大学大学院留学、RAND 研究所客員研究員、参議院外交防衛委員会客員調査員、神奈川県参与、国際問題研究所客員研究員。

現在拓殖大学海外事情研究所所長・教授。その他中央大学法学部大学院兼任講師、NPO 法人外交政策センター (FPC)理事長等を兼務。



川上講師による講演

(2) 講演要旨

トランプ政権は「アメリカの作り上げてきた世界」を壊すことで自らの存在感を高める。パリ協定からの離脱、環太平洋経済連携協定(TPP)からの離脱、北大西洋条約機構(NATO)の軽視、主要国首脳会議での独善的な振る舞いと国際秩序破壊にその喜びを見いだしている。

しかし、そのトランプの外交政策の受益者はロシアと中国となっている。

中国は「アメリカが作り上げた世界」からアメリカが離脱すると、そこに入り込みこれまでの秩序の主導権を奪おうと画策する。ロシアは米国がロシアゲートでトランプ政権

が壊滅するのを横目で見ながらアメリカの力が弱まるのを待つ。その間隙をぬって、北朝鮮は着々と核武装国家として台頭している。また、オバマ政権が努力し安定化させようとしてきた中東情勢もままならない。テロも現在、ヨーロッパ、アジアにも拡散してきている。

本講演では、これまでのトランプ政権の外交政策を分析し、今後の「トランプの世界」の課題を探った。



当学会会員からの質問

総括

参加された安全保障に関心のある方 50 名余りは講演を熱心に聴かれ、各講演後、多くの質問が講師に寄せられ、熱の籠った質疑応答が繰り広げられました。現在の安全保障の観点から非常に興味深いトランプ政権の誕生の背景とその政策に関しまして、各講師は濃い内容を平易にお話しされ、参加された方々は満足を得られたことと思っております。また、懇親会には 30 名弱の参加を得て、講師や学会員との約 2 時間にわたる触れ合いがあり、学会の PR とともに会員の獲得に若干寄与できたものと感じております。最後に、会場を提供いただいた日本大学通信教育部及び同部の担当(窓口)として積極的にご支援下さった陸亦群教授に御礼申し上げます。